

# 1. 令和元年度 営業概況について

当期のわが国経済は、雇用・所得環境や企業収益の改善により、個人消費や設備投資が増加傾向で推移し、内需を中心に緩やかな回復が続きました。一方で、消費税率引き上げ後の消費動向や米中通商問題の世界経済への影響など、依然として不透明な状況で推移しました。

観光業界においては、自然災害の発生や外交問題等のマイナス要因はあったものの、国の観光立国推進事業の取り組みに加え、ラグビーワールドカップ日本大会開催があり、訪日客が過去最高の3,188万人に達しました。

このような中、当期の立山黒部アルペンルートは、前期同様、4月10日に富山側の立山～弥陀ヶ原間の営業を再開し、4月15日には立山～信濃大町間が全線で営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、国内客につきましては、春先の令和改元に伴う大型連休となったゴールデンウィークが好天に恵まれ、団体個人客ともに前年を上回りましたが、訪日客は同期間の宿泊・航空運賃上昇などが影響し、前年を下回りました。その後、昨年より3週間も遅い梅雨明けや、お盆の台風上陸によって夏期の旅客が減少しました。紅葉期につきましても、大型台風19号によって、首都圏からの大動脈である北陸新幹線が約2週間に亘り一部区間が不通になったことが影響し、入り込み客数を大きく落とすこととなりました。

旅客の内訳では、国内旅客については、前年の関電トンネルトロリーバスのラストイヤーを謳った各種施策による客数増加の反動により、大町入り込み客数が大きく前期を下回りました。この結果、国内旅客全体の入り込み人員が643千人（前期比90%、72千人減）となりました。

一方、訪日旅客においては、香港、タイ、中国が順調に伸びましたが、近年復活してきた韓国が前年6割と大きく落ち込み、訪日旅客全体では、240千人（前期比90%、26千人減）となりました。

この結果、当期の入り込み人員は、合計883千人（前期比90%、98千人減）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みが425千人（前期比93%）、大町入り込みが458千人（前期比88%）となりました。

## ●アルペンルート入込人員実績

(単位：人)	平成30年度		令和元年度		
	実績	前年比	実績	増減	前年比
入込合計	981,000	106%	883,000	△ 98,000	90%
富山入込	459,000	99%	425,000	△ 34,000	93%
大町入込	522,000	112%	458,000	△ 64,000	88%
<b>&lt;国内・訪日内訳&gt;</b>					
国内入込人員	715,000	107%	643,000	△ 72,000	90%
個人	535,000	109%	483,000	△ 52,000	90%
団体	179,000	104%	160,000	△ 19,000	89%
訪日入込人員	266,000	101%	240,000	△ 26,000	90%
台湾	138,300	101%	125,700	△ 12,600	91%
香港	30,400	93%	31,400	▲ 1,000	103%
韓国	32,600	100%	19,100	△ 13,500	59%
タイ	16,800	99%	16,900	▲ 100	101%
その他	48,200	106%	47,400	△ 800	98%

※訪日入込人員は**個人+団体**の総数

※表示単位未満を四捨五入により端数処理しているため、合計と一致しない場合がある。

## ●ホテル宿泊人員実績（立山貫光ターミナル株）

(単位：人)	平成30年度		令和元年度		
	実績	前年比	実績	増減	前年比
ホテル立山	33,400	98%	30,900	△ 2,500	92%
弥陀ヶ原ホテル	18,700	110%	16,600	△ 2,100	89%
宇奈月国際ホテル	24,800	116%	16,000	△ 8,800	64%

## 2. 決算の概要について

### ●連結決算の概要

天候不順および北陸新幹線一部区間不通等により、国内及び訪日旅客数は共に減少。減収減益となった

(単位：百万円)

会社名	連結			立山黒部貴光(株)			立山貴光ターミナル(株)			立山黒部サービス(株)		
	H30年度 (百万円)	R01年度 (百万円)	前年度比 %	H30年度 (百万円)	R01年度 (百万円)	前年度比 %	H30年度 (百万円)	R01年度 (百万円)	前年度比 %	H30年度 (百万円)	R01年度 (百万円)	前年度比 %
営業収益												
運輸事業				3,833	3,553	93%						
ホテル事業							794	745	94%			
ホテル立山							438	403	92%			
弥陀ヶ原ホテル							434	288	66%			
宇奈月国際ホテル							1,666	1,437	86%			
ホテル事業計												
付帯事業				718	642	90%	1,254	1,191	95%	286	262	91%
営業収益計	7,274	6,606	91%	4,551	4,196	92%	2,921	2,629	90%	286	262	91%
営業費	7,220	6,888	95%	4,509	4,376	97%	2,928	2,756	94%	285	255	90%
営業利益(△は損失)	54	△282	—	42	△180	—	△7	△126	—	1	6	579%
営業外収益	56	52	94%	52	48	93%	10	10	98%	0	1	189%
営業外費用	36	36	100%	35	35	101%	1	1	82%	—	—	—
経常利益(△は損失)	73	△265	—	60	△166	—	1	△118	—	2	8	394%
特別利益	6	10	172%	5	4	86%	0	6	972.3%	0	—	—
特別損失	37	1,279	3449%	0	1,264	—	123	14	12%	0	—	—
税引前当期純利益(△は損失)	42	△1,534	—	65	△1,426	—	△121	△126	—	2	8	381%
法人税、住民税及び事業税	39	12	32%	38	9	24%	1	1	100%	0	2	625%
法人税等調整額	△23	△163	—	△10	△131	—	△12	△31	—	0	0	—
当期純利益(△は損失)	26	△1,383	—	38	△1,303	—	△110	△96	—	1	5	541%
非支配株主に帰属する当期純利益(△は損失)	△31	△27	—									
親会社株主に帰属する当期純利益(△は損失)	58	△1,356	—									
総資産	12,580	11,241	89%	11,304	9,906	88%	1,941	2,016	104%	293	291	99%
純資産	7,311	5,911	81%	6,933	5,625	81%	1,099	991	90%	195	201	103%

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨て処理しております。